

ベトナム現地情報（2021.11.23）

ジャパン証券 北山亨

第 20 回「韓国が力を入れるベトナム投資」

ハノイの街を歩いていると多くの韓国製品を見かけます。道路には現代自動車や起亜自動車といった韓国ブランドの乗用車。サムスン電子のスマートフォンや、韓国風の焼肉屋など韓国ゆかりの様々なものを目にします。両国は来年国交樹立から 30 年の節目の年を迎えます。今回はベトナム投資に力を入れる韓国について触れていきたいと思います。

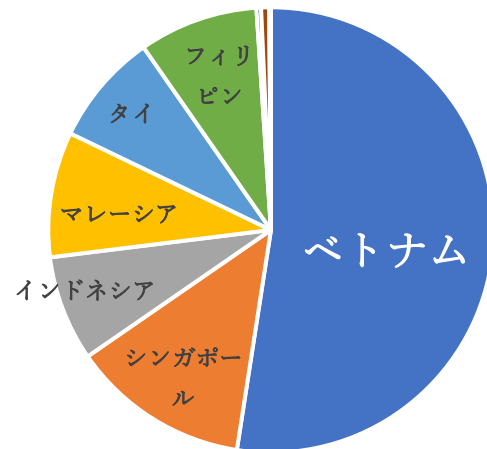
韓国の新南方政策

韓国は 2017 年に ASEAN 諸国との関係強化を図る「新南方政策」を掲げ、東南アジアに力を入れてきました。2021 年の ASEAN 諸国への直接投資額のうち、ベトナムはおよそ 4 割を占めており、特に力を入れています。

実際に韓国にとってベトナムは有望な経済的パートナーです。韓国の輸出先でベトナムは 3 番目に大きな貿易相手国であり、東南アジア地域での輸出額の半数以上を占めています。2015 年には自由貿易協定（FTA）を締結したりと関係強化を進めています。

韓国資本のベトナム進出は多岐に渡ります。例えば証券業では 2007 年に Mirae Asset Daewoo 証券がベトナムに初進出して以来、

韓国のベトナムへの輸出額は ASEAN 諸国全体の輸出額の約 52% を占めています。



（出所）韓国輸出入銀行より

ベトナムに対する韓国の直接投資額の推移



（出所）韓国輸出入銀行より

M&A や出資によって多くの韓国系証券会社が誕生しています。韓国系の証券会社は豊富な資本金を有しており、実際にホーチミン取引所の資本金上位 5 社のうち 2 社が Mirae Asset ベトナム証券、KIS ベトナム証券の韓国勢です。ベトナム市場は活況が続いており、特に個人投資家の信用取引が盛んです。しかし証券会社が融資できる金額はその会社の自己資本の最大 2 倍までの金額と決められており、今年の第 1 四半期にほとんどの証券会社はその上限に達しました。先に挙げた 2 社も信用取引サービスを提供しており、資金力の面で存在感を示しています。また 2022 年にホーチミン取引所の新システムに韓国製の取引システムが導入予定であり、ベトナムでの証券ビジネスのさらなる広がりを感じさせます。

2021 年 ベトナムの輸出入先、上位 5 ヶ国

	輸出額		輸入額	
1	中国	132	中国	111
2	米国	79	米国	61
3	ベトナム	46	日本	45
4	香港	31	オーストラリア	26
5	日本	25	ベトナム	20
	合計	523	合計	496

単位：100 万米ドル 韓国関税庁より

ハノイで感じる韓国の風

ハノイの街には在ベトナム韓国大使館や韓国人街のほか、韓国資本が手掛けた京南ハノイランドマークタワーやロッテセンター・ハノイといった市内で 1、2 位の高さを争う超高層ビルがあります。また西湖の西岸地域では、ここ数年 韓国のゼネコンである大宇建設によって都市開発「スターレイク・プロジェクト」が行われてきました。19 年末には韓国大使館が同地に移ってきており、最近でも近隣地域で大型複合施設のロッテモールや、サムスン電子の研究開発センターといった開発が進んでいます。都市鉄道のハノイメトロ 3 号線の地下区間の工事は現代建設が手掛けています。

ハノイ・韓国ホットスポットマップ

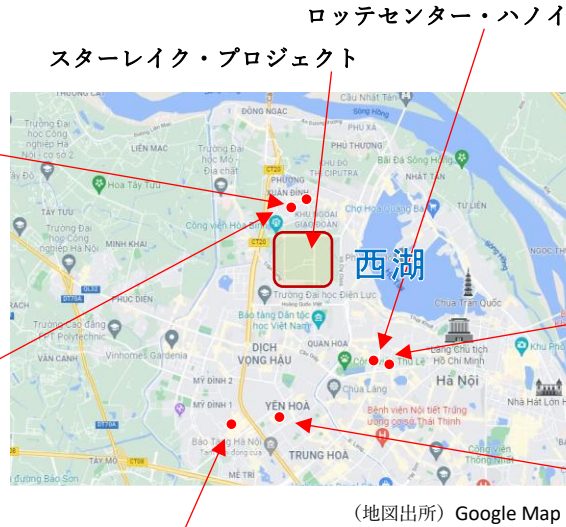
現代建設が開発に参加するハノイメトロ3号線



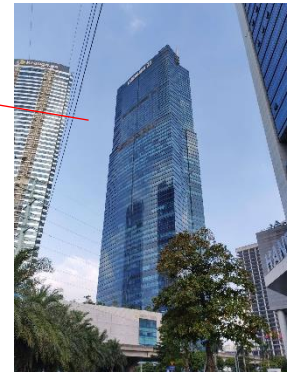
韓国大使館



サムスン電子の研究開発センター



韓国人街・ミーディン地区にある
韓国系スーパー「K-MARKET」



京南ハノイランドマークタワー
(ベトナムで2番目に高いビル)

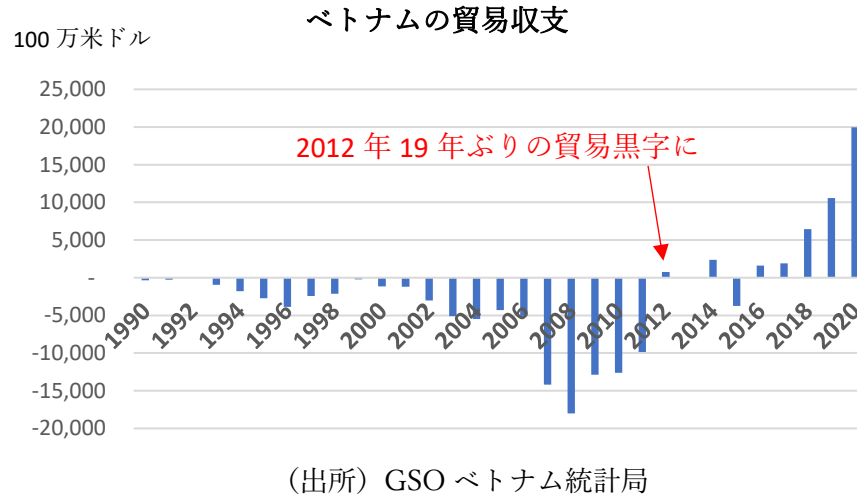
ベトナム投資の旗振り役・サムスン電子

サムスン電子は韓国企業のベトナム進出を加速させる起爆剤となりました。同社は2009年にベトナム北部バクニン省で携帯電話の工場を稼働させています。当時バクニン工場は2,300人ほどの規模でしたが、その後も設備投資が続けられ、現在では39,000人の従業員が働く一大生産拠点となっています。サムスン電子ベトナムの発表によれば、現在同社はベトナム全土で11万人の従業員を抱え、総額95億米ドルの直接投資を行っています。



サムスン電子のバクニン工場（左）とタイグエン工場（右） 同社公式ホームページより

なお世界で販売されるサムスンブランドのスマートフォン、タブレットの半分がバクニン、タイグエン省の工場で製造されています。これら工場の 2019 年 売上高は約 5 兆円と、その年の国内総生産のおよそ 18%に相当しました。巨額の法人税や地元雇用の創出など、当局にとっても見逃せない存在となっています。



サムスン電子の工場稼働を皮切りに、ベトナムの製造業の輸出額は 2010 年の 596 億米ドルから 2014 年に 1,328 億ドル、2020 年に 2,686 億ドンと年々増加しています。ベトナムの貿易収支は長く赤字が続いていましたが、製造業の輸出増が追い風となり、2012 年に 19 年ぶりの黒字を達成しました。その後も製造セクターの輸出額は増え続けており、貿易黒字に貢献しています。

ベトナムを襲った新型コロナ第 4 波は、その製造業に大きな影響を及ぼしました。厳しい抑え込み対策が響き、GDP 成長率は第 3 四半期に 2000 年に統計を取り始めてから初めてのマイナスを記録しました。その後 政府が表明した経済との両立を目指す「ウィズコロナ」への方針転換は、ベトナムで直接投資を進める韓国企業にもプラスに働くと思われます。韓国マネーの動向から今後も目が離せません。

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。